

原爆関係の慰霊碑等の概要(安佐北区内)

令和6年10月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注)	建立者	建立経緯・来歴等
井原01 白木01	井原甲田慰霊碑 1969年3月 安佐北区白木町井原(「甲田」バス 停前)	慰霊碑	森川茂省 氏	海軍軍人だった個人が、甲田地区の日中戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(13人。うち原爆犠牲者は県職員1人、軍人1人、準軍属1人の3人)を慰霊するため、建立した。碑正面下部に犠牲者の名前が刻まれている。なお、碑建立後に被爆死と判明した準軍属1人の名前は墨書されていたとのことだが、現在は消えている。毎年8月初め、遺族により慰霊行事が行われている。
井原02 白木02	井原地区平和の碑 2005年8月6日 安佐北区白木町井原(栄堂橋南詰 西)	ひろしまの被爆体験を未来への警鐘として平成元年(1989年)「井原原爆被爆者の会」を結成し、5年毎に地区内の三ヶ寺(浄満寺、養泉寺、高源寺)に於いて物故者追悼法要を厳修し被爆者による犠牲者の安らかな眠りと、平和への思いを新しく被爆の実相を正しく後世に伝え、核兵器の廃絶、世界の平和と地域社会の繁栄を広く呼びかけ生ある限り人間の尊厳を求めて茲に「平和の碑」を建立する平成17年8月6日(2005年)	井原原爆 被爆者の 会	被爆60周年記念として、建立された。台座周囲には、地区内の被爆者の名前が刻まれている。
井原03 白木03	大寺慰霊碑 1975年4月 安佐北区白木町井原(荒神社境 内)	慰霊碑	大寺地区 民有志	旧市川村大寺地区の日中戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(7人。うち原爆犠牲者は学徒1人、軍人1人の2人)を慰霊するため、建立された。後方には犠牲者の名前を刻んだ名録碑がある。
志屋01 白木04	志屋慰霊碑 1975年10月 安佐北区白木町志路(県道68号大 林井原線、龍福観音堂上り口付 近)	慰霊碑	志屋地区 遺族会	旧志屋村の日清戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(119人。うち原爆犠牲者は軍人11人、一般村民8人、軍属8人、動員学徒4人の31人)を慰霊するため、建立された。毎年秋、遺族会主催による慰霊行事が行われている。
三田01 白木05	三田慰霊碑 1956年9月28日 安佐北区白木町三田2649番地 (三田小学校内、正門付近)	慰霊碑 文部大臣灘尾弘吉書	三田村	三田地区には、かつて忠魂碑があったが、戦後直後に撤去された。1956年、三田村が遺族の心情を汲んで碑を建立した。なお、旧三田村の日清戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者は173人で、うち原爆犠牲者は動員学徒23人、軍人2人の25人。毎年10月、遺族会主催による慰霊祭が行われている。
口田東01 口田01	慰霊碑 不詳 安佐北区口田南八丁目48番(教蓮 寺矢口が丘墓苑内)	南无阿弥陀仏	前田元一 郎氏	口田地区は、爆心地から離れていることもあり、人的被害はなかったが、爆風によって建物の屋根や建具などが破損した。被爆後、市内中心部から多くの被災者が逃れてきて、口田国民学校(現在の口田小学校)や口田村農業会(現在のJA広島)に約380人が収容された。そのうち約70人が犠牲となり、河原で荼毘に付されたり、山林に土葬されたりした。戦後、矢口の火葬場にあった慰霊碑を現在地に移設し、原爆慰霊碑として再建立した。
大林01 三入01	戦没者慰霊碑 1976年8月15日 安佐北区大林町3697番地(大林 八幡神社境内)	戦没者慰霊碑	大林地区 在住者一 同	旧大林村の日清戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(原爆犠牲者は軍人7人、動員学徒4人、義勇隊2人、軍属2人などの計18人)を慰霊するため、建立された。碑正面に犠牲者の名前が刻まれている。
可部01 可部01	福王寺原爆聖霊供養寶塔 1971年8月6日 安佐北区可部町綾ヶ谷251番地 (福王寺境内、大師堂前)	南無大師遍照金剛尊(側面) 同一性故入 ■字(背面) ■≒阿	服部静子 氏	1963年に木碑が建立され、1971年に現在の石碑が建立された。
可部南01 可部02	可部地区原爆被爆者慰霊碑 不詳 安佐北区可部東四丁目28番(寺山 公園内)	原爆被爆者慰霊碑	広島市原 爆被爆者 協議会可 部支部、 広島可部 ライオン ズクラブ、 寺山公園 をつくら う会	可部地区に避難し、犠牲となった被爆者を慰霊するため、曼荼羅寺観音堂前(可部東四丁目2番13号)に山田保氏により木碑が建立された。その後、2017年11月に寺山公園に移設され、現在の石碑が建立された。

地区 小学校区 中学校区	名称 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注)	建立者	建立経緯・来歴等
亀山南01 亀山01	亀山原爆犠牲者の碑 1990年2月4日 安佐北区可部町大毛寺(亀山五丁目47番から福王寺山へ登る。福王寺山南麓)	昭和20年8月6日8時15分 原爆投下の際落下傘の落ちた地点 武田元繁後裔14世 安光覚遊建之 平成元年3月 題字 八十八翁 津恵保夫	安光覚遊氏	1945年8月6日、原爆炸裂に伴う気圧や温度の変化を調べるため、原爆投下に合わせて落下傘を付けた測定装置が投下された。約2時間後の10時15分、福王寺山南麓の安佐郡亀山村(現在の安佐北区亀山)に3個が落下し、そのうちの1個は碑建立者の個人所有の山林に落下した。建立者の長男は、学徒動員中被爆し、落下地点近くの姉の嫁ぎ先まで避難したが、そこで力尽きた。原爆の惨禍とパラシュートの落下の事実を伝えるため、長男の死没地近くのパラシュート落下地点に個人が碑を建立した。なお、落下したパラシュートと測定装置の一部は、平和記念資料館に保管されている。毎年8月6日の8時15分と10時15分に慰霊行事が行われている。
鈴張01 清和01	鈴張慰霊碑 1969年12月7日 安佐北区安佐町鈴張(鈴張小学校裏)	慰霊碑	鈴張慰霊碑建設委員会	旧鈴張村の日清戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(137人。うち原爆犠牲者は動員学徒9人、軍人3人の12人)を慰霊するため、建立された。碑背面に犠牲者の名前が刻まれている。
鈴張02 清和02	鈴張原爆慰霊碑 1970年8月 安佐北区安佐町鈴張1965番地(長覚寺境内)	原爆慰霊碑	鈴張地区民、長覚寺	被爆当日から傷付いた被災者は鈴張村へも避難してきた。翌7日以降、150人以上の負傷者がトラックで長覚寺に收容され、10月までに100人以上が亡くなった。そのうち80人以上の遺骨は遺族、近親者に引き取られたが、10数体の遺骨は引き取り手のないまま無縁仏として共同墓地に埋葬された。1970年に共同墓地が移転することになり、遺骨が再び長覚寺に移された。地元鈴張地区の人々はこれら被爆者の死を悼み、碑を建立し、遺骨を納めた。 ※お話を伺いたい場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(坊守080-6307-5750、長覚寺082-835-1028、082-835-1929)で)
小河内01 清和03	小河内戦没者慰霊碑 1969年3月21日 安佐北区安佐町小河内3234番地(大歳神社付近)	慰霊碑	小河内慰霊碑建設委員会	旧小河内村の日中戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(118人。うち原爆犠牲者は軍人11人、動員学徒5人、軍属2人の18人)を慰霊するため、建立された。碑正面に犠牲者の名前が刻まれている。
飯室01 清和04	飯室忠魂碑 1971年4月29日(改修) 安佐北区安佐町飯室(養専寺前)	慰霊のことば このたび累次の戦いに尊い命を捧げられた方々の霊をこの碑に合祀し慰霊いたします。どうぞ故郷の地に永久に安らかに安眠して下さい。 昭和46年4月(台座正面)	慰霊碑建設委員会	旧飯室村の日露戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(122人。うち原爆犠牲者は動員学徒の13人以外は不明)を慰霊するため、建立された。碑周囲に犠牲者の名前が刻まれている。
久地01 清和05	久地忠魂碑 1970年7月12日(改修) 安佐北区安佐町久地(「久地本郷下」バス停前)	忠魂碑 陸軍大将宇垣一成謹書	久地忠魂碑建設委員会	旧久地村の日清戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(160人。うち原爆犠牲者は学徒12人、軍人7人、準軍属6人、軍属5人、女子挺身隊1人の31人)を慰霊するため、建立された。碑は当初1929年に建立されたが、占領政策を受けて1946年に政府が出した方針(学校及び公共用地等にある忠魂碑等の撤去)を踏まえ、地区民が解体して地中に埋めた。1968年、碑再建の機運が高まり、碑が掘り出され、2年後に原爆死没者なども慰霊対象に含められた。碑側面及び台座に犠牲者の名前が刻まれている。
日浦01 日浦01	日浦慰霊碑 1971年12月 安佐北区安佐町後山(「後山農協前」バス停北200メートル)	慰霊碑 広島市長 山田節男謹書	日浦慰霊碑建設委員会	旧日浦村の日中戦争から太平洋戦争までの戦没者と原爆犠牲者(104人。うち確認されている原爆犠牲者は学徒の15人)を慰霊するため、建立された。碑背面に犠牲者の名前が刻まれている。後山地区の住民により、毎週一回、慰霊のための献花が行われている。

(注)原則、漢数字は算用数字で表記しています。